



上棟式の様子（左側の下に「棟上げ式の歌」を歌う職人頭。）

1992 年 6 月に着工された増築校舎の上棟式（Richtfest）が同年 11 月 20 日 12 時から建築現場で盛大に行われた。本件は必ずしも「JISD の宝」自体には当らないが増築時のエピソードとして紹介しておく。

普通ドイツで行なわれる棟上げ式は躯体（くたい）工事の完了した時点で、色とりどりのリボンを巻きつけた樅（もみ）の木か白樺を建物の上やクレーンの傍に固定して、またそうでない場合には棟上げ用の花環を吊り下げて祝い、施主（せしゅ）は職人達を労（ねぎら）うために規模に応じた飲食の場を設ける。何れにしても本来は内輪の会合だがこの時は対外的な配慮も為された。

初めに屋外で儀式が行われた。三重の花環がクレーンの中ほどで止まった所で躯体工事を請け負ったビルフィンガー & ベルガー社の職人頭、バウムフォール氏による職長の上棟式詩が屋上で朗々と詠われ、最後に手にしたガラスの盃を足下に投げつけて四方八方に飛び散った煌（きらめ）く華でこの建物の多幸を祈念した。脚韻を踏んだこの詩は多くの参会者に好評だったので、ご参考までに以下に紹介しておく。写真はクレーンから吊り下げられた棟上げ式花環と、上棟式詩を詠うバウムフォール職人頭（左下）（和訳：岡田）

Richtspruch

Sehr geehrte Damen und Herren !
Die Feierstunde hat geschlagen,
es ruhet die geübte Hand.
Nach harten, arbeitsreichen Tagen
grüßt stolz der Richterkrantz nun ins Land.
Mit Eifer und mit viel Bedacht
ward dieses stolze Werk vollbracht.
Schon bald wird man hier unterrichten

上棟式の詩（うた）

ビルフィンガー & ベルガー社
棟梁 バウムフォール

御列席の皆様！
祝いの時の鐘が鳴り、
熟練の手は静かに休む。
厳しき、あまたの仕事の日々を経て
棟上げの花環は今、誇らかに大地に挨拶する。
真心を籠め、大いなる配慮のもとに
この誇り高き仕事は成し遂げられた。
もう程なくこの場で授業が始まろう

fürs Leben mit seinen Rechten und Pflichten.
Möge diese neue Schule fein,
den Schülern Ansporn zum Fleiße sein.

Wir dürfen heute vielen danken,
die sich für dieses Werk geregt,
für Pläne, Arbeit und Gedanken
vom Morgen bis zum Abend spät.

Nun lasset uns das Fest begehen
bei Frohsinn, gutem Trank und Schmaus,
das Glas mag jetzt in Scherben gehen
und Glück bedeuten für das Haus.

権利と義務の伴いし人生に対する授業が。
この新しき学び舎は優美なれ、
学ぶ子らには勤勉への励ましなれ。

われら本日あまたの人に感謝する。
この仕事のために働いて来た人々に、
図面作りに、作業に企画にと
朝から夕べ遅くまで働いて来た人々に。

さあ祝いを始めよう
陽気に、美酒を飲み干し馳走を食し、
盃は今は粉々（こなごな）の華（はな）となれ
碎けし華はこの家の幸なれ。



新・増築校舎概観（平成 15 年度＜2003＞派遣教員 小谷将紀先生撮影）。正面 1 階は職員室、正面 3 階は小ホール。正面 3 階の右はハウスマイスター住居。右側の建物は体育館。